



『世人、薄俗にして

ともに不急の事を諍う』

〈大無量寿経〉

「あなたにとって大切なことは？」と尋ねられたら、何と答えるでしょうか？すぐに答えられる人もいれば、いま探しているところだと言う人もいるかもしれません。また、そんなことを考えても

仕方ないと思う人もいるかもしれませんが。しかし、いずれにしても、何が本当に大切なことであるかはつきりしないと、何をしたか分からないままに人生を過ごしてしまふことになると思います。

たとえば、新聞やテレビでは、毎日のように新しいニュースが取り上げられ、私たちもそれが一大事であると感じることが多くあります。ところが、次から次と新しい出来事が起こってくる中で、当事者かよほどの関心をもった人にとっての問題でない限り、どんどんと忘れられ、そんなこともあつ

たなあとという記憶の中に消えて
いつてしまえます。一大事だと大
騒ぎしたことが、まるでなかった
かのように。

それは結局、世間で騒がれてい
ることに振り回されているだけな
のです。何かが流行すると、それ
を手に入れなければ自分が取り残
されるように思うのです。そして、
他人からどう見られるかというこ
とばかりを優先することすら起
こってきます。そのような私達の
生き方を、お釈迦様が深い悲しみ
をもって見つめられたのが次の言
葉です。

へ世人、薄俗にして

ともに不急の事を諍う

(世間の人は、自分の生き方を
深く見つめることなく、急がな
くてもよいことに心を奪われて、
お互いに争い合っている)

世間に振り回されるというの
は、決して自分ひとりのことには
どどまりません。お互いに自分が
大事だと思っていることを主張し
合うのです。しかも、そのことが
本当に急がなくてはならない大切
なことであるかどうかを確かめる
こともありません。そしてひどい

場合には、相手の意見を押しつぶし、排除しようとさえします。

お釈迦様は、世間のことはどうでもよい、放っておけ、といっているのではありません。また、現在がかえている仕事に優先順位をつけなさい、と言っているのでもありません。どんな仕事を成し上げようとも、自分が何のために生きていくのかをはっきりしなかったならば、お互いが傷つけ合いながら人生を空しく過ごすことになると呼びかけておられるのです。

誰もが誰とも代わることのできないかけがえのない人生を与えら

れています。お釈迦様はそのことを明らかにし、自分の人生を本当に大事にしていく道を教えてくださっているのです。



『急げ、急げ』

「仏法には明日と申す事、あるまじく候う。仏法の事は、急げ、急げ」蓮如上人はこう語ったそうです。「明日がどうなるかわから

ないから、今日の一日を大切に。楽しく過ごそう」という意味ではありません。人生の目的、行く道は仏教に聞かせてもらうよりほかない。今、今。聞かせてもらうのは今。先送りしてもいつかは死んでいかねばならない。死ぬ問題が解決しなければ生きるという問題にも取り組めません。阿弥陀さまの願いと誓いをしっかりと聴聞させていただきましょう。お念仏申す中に、生死の問題が苦悩から安心に転じていく教えを聞かせていただきましょう。

四月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 四月七日(火)～十一日(土)

講師 未定

○後期 四月十三日(月)～十六日(木)

滋賀教区 長浜組 浄願寺

講師 夏木 一丸 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますよう、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (011-34) 221074
 FAX (011-34) 211408
 テレホン法話 271161